（資料編Ⅱ-2-1-1） 自然災害伝承碑一覧

令和7年4月1日現在

	碑名	建立年	所在地	災害名	災害種別	伝承内容
1	震災記念碑	1924	埼玉県さいたま市南区松本三丁目(白髭神社)	関東大震災(1923年9月1日)	地震	大正12年(1923)9月1日午前11時58分に発生した関東大震災は、関東一帯の地面を揺らし、死傷者数十万人および数多くの建物、橋、線路を破壊した。旧美谷本村では住家72戸(その内、ここ大字松本新田は14戸)が倒壊、白髭神社の社殿も倒壊するなど、崩れたり傾いた建物が村全体に入り乱れていた。
2	八丁の水神社再建記念碑	1929	埼玉県さいたま市緑区大間木2395(水神社)	関東大震災(1923年9月1日)	地震	水神社は、水の神である罔象姫命(みづはのめのみこと)を祀っている。大正12年(1923)9月1日の大地震により、享保17年(1732)6月に創建された社殿は全壊し、倒壊家屋は、八丁、下山口だけで30戸に及んだ。
3	寛保の洪水記録灯籠	1763	埼玉県川越市久下戸(氷川神社)	寛保2年の大洪水(1742年8月)	洪水	寛保2年7月27日(1742年8月27日)から降り始めた雨は、8月1日(1742年8月30日)に豪雨となり、荒川の水位は堤の上まで達し、各所で決壊した。旧久下戸村では、隣の旧古谷本郷村で堤防が決壊したため多くの家が軒まで浸水し、氷川神社も約60cm浸水した。このような甚大な水害であったが、近隣の村々では田に落ちて溺死したもの以外に死人はなかった。
4	寛保二年大洪水・水位記念碑	1999	埼玉県川越市久下戸(氷川神社)	寛保2年の大洪水(1742年8月)	洪水	寛保2年7月27日(1742年8月27日)から降り始めた雨は、8月1日(1742年8月30日)には豪雨となった。増水した荒川の水位は堤の上まで達し、各所で決壊を引き起した。洪水当時の水位は標高9.5mまで上昇し、この水位を後世に伝えるために新たな水位標が建立された。川越藩領での被害は破堤96か所、流失家屋79戸、浸水で潰れた家274戸、死者24人の記録がある。
5	決潰の跡	1958	埼玉県熊谷市久下	カスリーン台風(1947年9月15日)	洪水	昭和22年(1947)9月14日から15日にかけて、カスリーン台風による豪雨で、熊谷市久下地先で荒川の洪水が堤防を越え約100m決壊した。その濁流は、下流の鴻巣市で約90m決壊した濁流と合わさり、元荒川筋を流れ下りた。洪水は浸水など付近一帯に甚大な被害を与え、人々はただ避難することしかできなかった。この碑は洪水の恐ろしさ、治水対策の重要性を後世に伝えるため設置された。
6	吉見堤碑	1911	埼玉県熊谷市手島	洪水(1859年)明治43年の大水害(1910年8月)	洪水	旧市田村手島から小泉までの堤は、安政6年7月25日(1859年8月23日)に水が溢れ、橋が壊れ家屋も数戸流された。時を経た明治43年(1910)には再び夏の長雨に見舞われ、8月10日に再び荒川の堤が約336mに渡って決壊し、濁流は泥海のようになり、旧市田村、旧吉見村及び比企郡の旧吉見4村の家々は水没し、周囲には溺れる人の泣き叫ぶ声が聞こえ、悲惨極まる状況となった。
7	修萬吉堤之碑	1912	埼玉県熊谷市万吉	洪水(1907年8月)明治43年の大水害(1910年8月)	洪水	荒川は夏秋の大雨で溢水決壊を免れず、萬吉堤も同様であった。明治40年(1907)8月15日の洪水を機に増築改修約727m、新堤が約1,090mほど築かれた。しかし、明治43年(1910)8月の10日間に及ぶ長雨には耐えられず堤防が決壊。人も田も家屋も大きな被害を受ける洪水となり、県は約1,800mを越える堤の移築と新築に取り組んだ。この碑にはそれまでの状況について記されている。
8	久下堤碑	1912	埼玉県熊谷市久下	洪水(1859年8月23日、1864年9月9日) 明治43年の大水害(1910年8月10日)	洪水	安政6年7月25日(1859年8月23日)の大雨で、久下にある東竹院のあたりで荒川堤防が決壊し民家17戸が流され死者21名を出した。元治元年8月9日(1864年9月9日)の大雨でも、安政6年の時と同じく東竹院で堤防が決壊し民家13戸が流された。明治43年(1910)8月1日から続いた豪雨でも荒川が増水し、8月10日に大麻生の堤防が決壊した。碑にはその後の堤防改修の一大工事の様子が刻まれている。
9	男沼樋門改修之碑	1918	埼玉県熊谷市男沼	明治23年の大水害(1890年8月)	洪水	男沼地区は江戸時代から水が溜まりやすい場所で、洪水による被害を受けやすかった。そのため、江戸時代、農業排水を利根川に導く樋門を設け水害は減少していったが、明治23年(1890)の洪水で樋門が破壊された。その後改修工事によって男沼樋門は煉瓦製に生まれ変わった。

10	利根川妻沼町地内 増補工事竣工記念碑	1958	埼玉県熊谷市妻沼	カスリーン台風(1947年9月15日)	洪水	昭和22年(1947)9月14日から15日にかけて、カスリーン台風と活発化した前線の活動による豪雨で利根川が増水し、現在の加須市新川通の堤防が決壊し、明治43年(1910)以来の大洪水となった。幸いにも妻沼地区の堤防は決壊を免れ、冠水被害だけで終わった。この碑は昭和30年(1955)10月に起工した妻沼町地先利根川堤防の増補工事竣工を記念し建立された。
11	明治四十三年水害遭難追薦碑	1942	埼玉県飯能市大字上名栗	明治43年の大水害(1910年8月10日)	洪水・土砂災害	明治43年(1910)8月8日から雨は激しくなり、10日には豪雨となった。10日午後8時40分頃、旧名栗村大字穴沢の山腹が轟音とともに崩壊し、山麓の家屋8戸を飲み込んだ。この土砂災害で穴沢地区では22名の命が奪われた。
12	決壊口跡	1950	埼玉県加須市新川通	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年(1947)9月、カスリーン台風が関東地方を襲い、16日未明にこの地で堤防が決壊し、その濁流は東京まで到達した。未曾有の大災害により利根川流域では死者1,100人、家屋浸水303,160戸、家屋の倒半壊31,381戸の甚大な被害をもたらし、碑文には治水事業がとても大切であることが記されている。
13	決壊口跡	1950	埼玉県加須市向古河	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年(1947)9月、カスリーン台風が関東地方を襲い、16日未明にこの地で堤防が決壊し、二つの村を水底に浸して多数の人命と家屋が奪われた。この流域では、昭和10年(1935)と昭和16年(1941)にも大洪水に襲われており、碑文には治水事業がとても大切であることが記されている。
14	利根川治水記念碑	1989	埼玉県加須市新川通	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年(1947)9月に襲来したカスリーン台風は未曽有の豪雨をもたらし、利根川流域において、死者1,100人、家屋浸水303,160戸、家屋の倒半壊31,381戸の甚大な被害をもたらした。碑文には、首都圏の安全のために、治水事業が引き続きとても大切であることが記されている。
15	石橋供養塔・水災記念之碑	1911	埼玉県加須市水深(江川堀・稲荷橋)	明治43年の大水害(1910年8月)	洪水	明治43年(1910)は、梅雨の頃から7月にかけて雨が多かった。8月になると豪雨が続き、利根川・荒川は氾濫して堤防が決壊した。濁流が阿良川堤に押し寄せて水利組合が警報を発したが、堤は遂に破られ、この辺り一面は泥海となった。安永2年(1773)建立の供養塔に明治44年(1911)に水災記念が加えられている。
16	石橋供養塔・降砂洪水記録之碑	1791	埼玉県加須市水深(青毛堀川・二枚橋)	天明3年浅間山噴火(1783年)天明6年の大洪水(1786年)	洪水・火山災害	天明3年(1783)の浅間山噴火による降灰により、利根川などの川床が上昇した。天明6年7月13日から16日(1786年8月6日から9日)まで大雨となり、諸河川の氾濫をもたらした。翌年は、前年の水害と天候不順により凶作となり飢饉となった。
17	水量杭記念碑	1911	埼玉県加須市町屋新田(大神社)	明治43年の大水害(1910年8月)	洪水	明治43年(1910)8月に大洪水が発生して甚大な被害となった。将来にむけて注意を促すため、石碑の上面がこの大洪水時の水位となるよう設置された。
18	明治四十三年大洪水記念碑	1911	埼玉県加須市花崎(鷲宮神社)	明治43年の大水害(1910年8月)	洪水	明治43年(1910)は7月下旬からずぶ濡れになるほどの雨が降り、8月11日に止んだ。この大雨により利根川・荒川の堤防の多くが決壊し、関東は稀にみる大洪水となった。死傷者や家畜の被害は数えることができないほど多く、田んぼや家も流された。
19	水害復旧竣功記念碑	1950	埼玉県加須市川口(神明社)	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年9月16日未明、島川では堤防が6箇所で決壊し、洪水は旧東村全体に及び、濁流は東京まで達した。ここ川口では上流で1箇所、下流で2箇所が決壊し、家屋の流失倒壊4戸、床上浸水100戸余、耕地約100ヘクタールはすべて冠水して収穫は概ね皆無となるなど、甚大な被害となった。

20	昭和二十二年大洪水記念碑	1950	埼玉県加須市南篠崎(神明社)	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年9月16日未明、島川では堤防が6箇所で決壊し、洪水は南篠崎の一画を除いて旧東村全体に及んだ。家屋は流失倒壊8戸、半壊25戸、床上浸水600戸あまり、耕地は30ヘクタールあまりが埋没・流失し、収穫皆無の田畑は7割を超えた。
21	水害復旧記念碑	1951	埼玉県加須市南大桑(東岡集会所)	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年(1947)9月16日未明、島川の堤防が6箇所で決壊し、洪水は旧東村全体に及んだ。南大桑では観音堂の堤防及び西岡地内1箇所で決壊し、家屋の流出は1戸、半壊数戸、床上浸水200戸あまり、耕地200ヘクタールあまりがすべて冠水し、作物の収穫はほとんどなくなった。
22	洪水記念碑	1911	埼玉県加須市阿良川(天神社)	明治43年の大水害(1910年8月)	洪水	明治43年(1910)7月下旬から8月11日まで続いた長雨により河川が増水して氾濫し、関東諸国は最も悲惨な状況となった。被害は、北葛飾・南埼玉両郡を過ぎて東京まで広がり、数日の間、水没は続いた。
23	寛保二年水難供養塔	1774	埼玉県加須市中ノ目(中ノ目橋北)	寛保2年の大洪水(1742年8月)	洪水	寛保2年7月27・28日(1742年8月27・28日)と雨が降り続き、8月1日(1742年8月30日)の夜中に大雨となった。翌2日の朝には、加須市志多見の阿良川地内では、水除け堤約90mが決壊した。利根川をはじめとする多くの諸河川の水が溢れ、被害は江戸までおよび、この地域でも洪水で多くの人が亡くなった。
24	建碑記	1917	埼玉県加須市柏戸	洪水(1786年、他)	洪水	渡良瀬川分流の流域が水害を受けるようになると沿岸の町村が互いに堤防を築くようになる。それが川の遊水区域を狭め、水害は激甚化する。この碑は、ここ柏戸地区で天明6年(1786)、明治3年(1870)、同29年(1896)、同40年(1907)の4回5箇所を含む、旧利島村と旧川辺村の周辺で、天明6年～明治43年(1910)までの125年間に27回85箇所に及ぶ破堤があったことを伝えている。
25	改葬紀念之碑	1912	埼玉県加須市柏戸(共同墓地)	洪水(1786年8月)	洪水	天明6年(1786)夏、関東地方は大雨となり、先年の浅間山大噴火の降灰で河床が浅くなった利根川などが氾濫し、大洪水となった。旧北川辺町小野袋、栄、柏戸、本郷で堤防が決壊し、多大な被害となった。当地は、堤防、寺の殿堂や坊舎等が跡形もなく流失し、海のようになった。碑の向かいに流された石碑をまとめ、萬靈塔を建てた。
26	背高地蔵	1718	埼玉県加須市下崎	洪水(1704年、他)	洪水	宝永元年(1704)の水害により、騎西領用水路の水門や排水路である笊田落堀、備前堀が被害を受けた。旧騎西町ではその昔、家々が濁流にのまれ、辺り一面が大海原となった。水害で亡くなった人の供養とともに、どんな大水に遭っても潜らないようにと、背の高い地蔵尊が建てられた。
27	水害紀念碑	1913	埼玉県加須市船越	明治43年の大水害(1910年8月11日)	洪水	明治43年(1910)8月11日、稀に見る大洪水により船越の堤防3箇所が決壊し、濁流は住居を襲い、床上浸水15戸、床下浸水14戸の被害を受けた。田は浸水により一切作物が収穫できない惨状となった。碑は、令和5年(2023)3月に現在の場所に移転された。
28	百観音刑主元映師墓志銘	1840	埼玉県本庄市児玉町小平647(成身院 百体観音堂)	天明3年浅間山噴火(1783年8月4日)	洪水・土砂災害・火山災害	天明3年7月7日(1783年8月4日)、浅間山は地震、雷鳴の中、大爆発を起こし、火山灰は広範囲に降り積もった。流出した火砕流は岩屑なだれとなり、吾妻川から利根川を流れ下り、大量の土砂が利根川と烏川の合流点を埋めたため、旧本庄宿では烏川が氾濫し大水となった。利根川と烏川流域の水死者は数え切れなかった。
29	正観寺浅間山噴火伝承碑	1806	埼玉県本庄市都島864(正観寺)	天明3年浅間山噴火(1783年8月2～6日)	洪水・土砂災害・火山災害	天明3年7月5日(1783年8月2日)夜から浅間山の噴火が始まり、三日三晩火山灰が降り続いた。7月8日(8月5日)には利根川から山のような泥流が押し寄せ、烏川との合流点を埋めた。五料の関所では三分川を押し切って烏川に流れ込み、烏川が氾濫し、八丁河原(埼玉県上里町)には東西から水が押し寄せた。

30	倉松落大口逆除之碑(くらまつおとしおおくちさかよけのひ)	1892	埼玉県春日部市八丁目	洪水(1890年8月23日)	洪水	明治23年(1890)8月22日に大雨となり、23日に行田市下中条で利根川の堤防が決壊。古利根川も氾濫し春日部市域でも粕壁、内牧、豊春などで200戸を超える家屋浸水や、田畑冠水が発生した。萬延元年(1860)に設置された逆流防止の逆除(さかよけ)は古利根川の逆流で大破し、堤も被災した。
31	関東大震災伝承碑	1927	埼玉県春日部市南3-18-17(元新宿八幡神社)	関東大震災(1923年9月1日)	地震	大正12年(1923)9月1日正午に、これまでにない大地震が関東地方を襲い、東京や横浜等では建物の倒壊や火災が四方で発生し、死者多数となり、ほとんど焼土と化した。この地も甚大な被害を受け、八幡神社や組内の44戸の大半が倒壊し、死者1名、負傷者3名を出した。また、耕地では亀裂や陥没が生じた。
32	記念碑	1928	埼玉県春日部市増戸464(増戸神明神社)	関東大震災(1923年9月1日)	地震	大正12年(1923)9月1日、関東大震災によって、増戸地区において圧死者3名、建物の全壊16戸、半壊5戸の被害が生じた。神明神社の社殿も損壊が激しかった。
33	水神	1911	埼玉県狭山市入間川3丁目	明治43年の大水害(1910年8月11日)	洪水	明治43年(1910)8月に起きた水害は埼玉県下に大きな被害を与えた。入間川の増水も、堤防を守ろうとする住民の奮闘のかいなく、10日の夜には手の施しようのないものとなり、周辺の河川も含め計62箇所、狭山市域で入間川5箇所が決壊した。旧入間川町では床上床下合わせ71戸の浸水被害を出した。旧久星酒造裏の堤防も危うく決壊しそうになったが、同酒造が大量に保有していた米俵を土嚢として提供したため、決壊を免れることができたという。
34	松平大和守生祠	1794	埼玉県羽生市本川俣(長良神社)	洪水(1786年8月9日、1791年9月4日)	洪水	天明6年7月16日(1786年8月9日)の大雨により、旧上川俣村の竜蔵堤が決壊した。また、寛政3年8月7日(1791年9月4日)暴風と大雨により同箇所の再決壊に加え、旧下村君村でも堤が決壊し家屋流出50～60軒、死者4名の被害があった。領主松平大和守直恒は、領民に食糧を与え、租税も5年間免じた。この祠はそのいわれを後世まで伝えるため建立された。
35	災害復旧記念碑	1957	埼玉県鴻巣市滝馬室	カスリーン台風(1947年9月15日)	洪水	荒川の激しい流れを支える水防の要所であった大間堤防が、昭和22年(1947)9月15日のカスリーン台風の豪雨により、約65mにわたって決壊した。堤防を横切るように設けられた行人樋管も破壊されたため、旧田間宮村内の約300戸が濁水に浸かり、死者3名のほか、農作物や家畜の被害も甚大であった。
36	填長淵記	1889	埼玉県鴻巣市大芦(大芦氷川神社)	洪水(1824年9月7日)	洪水	文政7年8月15日(1824年9月7日)の長雨により、旧明用村の荒川堤防が約150mにわたって決壊した。以来60年余り、流れ出した跡地には、現在の熊谷市久下から鴻巣市三町免にかけて長さ約2.5km、幅約13～40m、深さ約1.5～9mの大きな池ができた。池が深いことから池を抱えるように荒川本流へ弧形に張り出した堤防を築き池はそのままとした変形工事が行われた。変形工事とはいえ水深約3.3mもあるような場所であった。堤切所(約190m)にわたっての大工事であった。当初この碑は荒川堤防上にあったが昭和9年(1934)の堤防改修に伴って氷川神社に移転した。
37	水標	不明	埼玉県深谷市横瀬1358(横瀬神社)	明治43年の大水害(1910年8月10日)	洪水	明治43年(1910)8月、連日の大雨で埼玉県においては、死者・行方不明 347 名の被害が出た。また945地点で破堤し、県の全面積の約24%が浸水した。碑は、本水害時の水位を記録したもので、所在地の浸水深であった高さ約80cmの位置に印が刻まれている。さらに、被害を鑑みて税が免除されたことに対する感謝の念が記されている。

38	水難死者供養塔	1917	埼玉県上尾市大字領家	洪水(1910年8月11日)他	洪水	この地域では関東山岳部に降り続く雨が荒川や利根川に入り込むため、荒川の沿岸にある旧大石村や旧平方町などは水害の被害を受けやすい地域であった。明治期では、明治36年(1903)、明治40年(1907)と荒川の堤防が決壊し、水害がおこった記録がある。明治43年(1910)8月は今までで最大の水害であった。降り続いていた雨が暴風雨となり8月11日に大石村領家地区で荒川堤防が決壊した。なお碑には明治3年～大正4年までの地元の水難死者33名の被災日付と氏名が記載されている。
39	瓦曽根溜井(かわらぞねためい)防水記念碑	1893	埼玉県越谷市西方二丁目	洪水(1890年8月)	洪水	明治23年(1890)8月上旬から雨多く、22日に大風雨となり、23日に行田市下中条で利根川の堤防が決壊した。越谷市域は元荒川や葛西用水から大洪水に見舞われ、瓦曽根溜井(かわらぞねためい)では水位が上昇し、溜井の堤防が決壊すると下流域の東京が水没してしまうことから、東京からも応援の人々が駆け付け、警鐘を鳴らし火を焚き昼夜土俵積みを行い、難を免れた。
40	慰霊碑	1958	埼玉県入間市鍵山1-1121-11	洪水(1945年6月6日)	洪水	昭和20年(1945)6月6日夜半の大雷雨で、霞川沿岸は氾濫し、一瞬で堤防が約36mの長さで決壊した。被害は家屋流失2戸、床上浸水20数戸、床下浸水100戸余りに及び、流失家屋から2名の母子の犠牲者を出した。当時の堤防決壊箇所に、慰霊碑と霞川改修の記念碑が建てられた。
41	寛保治水碑	1743	埼玉県久喜市鷲宮一丁目(鷲宮神社)	寛保2年の大洪水(1742年8月末)	洪水	寛保2年(1742)8月末、信濃の山々からの水により川が溢れ出し、上毛、武蔵の下流域は大洪水に見舞われた。復旧を急ぐ幕府は、利根川、荒川、古利根川、鬼怒川などの堤防の修築に取り掛かる。萩藩毛利家には埼玉県本庄市から加須市、春日部市まで利根川流域の堤防の修復を行わせた。工事には被災した多数の住民を作業員として雇い生活支援を行った。
42	修堤紀功碑	1909	埼玉県富士見市下南畑(難波田城公園)	洪水(1786年、1907年)	洪水	新河岸川はかつて伊佐川と呼ばれ、荒川の支流の一つであった。かの太田道灌が川越に城を築いた際に堤を設け、以来同川は舟運で賑わい名も新河岸川と変わった。ただ、川は長雨に遭うたびに氾濫を繰り返した。明治41年(1908)にこの地の堤は大改修された。
43	二郷半領治水碑	1935	埼玉県三郷市茂田井字中通390番	洪水(1890年8月)明治43年の大水害(1910年8月)他	洪水	二郷半領と呼ばれる現在の三郷市周辺は低湿地のため豪雨の度に耕地は泥海と化すことが年に数回発生していた。明治23年(1890)8月の大雨では、利根川の加須で破堤、下流域に濁流が浸水、古利根川の旧戸ヶ崎村・旧吉川村の堤防が決壊、二郷半領一円が浸水した。明治43年(1910)8月の大雨では、埼玉県の全面積の約24%が浸水した。そのため大場川の改修を行い、周辺地域の排水改良を実現した。
44	堤防修築記	1911	埼玉県蓮田市閏戸	明治43年の大水害(1910年8月11日)	洪水	明治43年(1910)8月、連日の大雨で濁流があふれ見沼代用水は101箇所で決壊した。閏戸地区でも堤防が決壊し、家屋は浸水、田は水没した。旧綾瀬村の記述によれば、元荒川、綾瀬川、見沼代用水の堤防決壊が10数箇所、田畑耕地約500ヘクタールのうち荒廃及び全く収穫ができない田畑が約460ヘクタールを越えた。
45	懸樋修繕碑記	1916	埼玉県蓮田市蓮田	明治43年の大水害(1910年8月11日)	洪水	明治43年(1910)8月、連日の降雨とその後の暴風雨は山間部で山崩れを引き起こした。8月11日には大量に流れ込んだ土砂や流木は濁流と共に荒川、利根川の堤防を決壊させた。その水が勢いを増して押し寄せ、旧黒浜村、旧平野村では多くの家屋が浸水し、農作物が全滅した。
46	神明社拝殿新築記念碑	1929	埼玉県幸手市中二丁目(神明神社)	関東大震災(1923年9月1日)	地震	大正12年(1923)9月1日午前11時58分、突如上下の震動とともに大地震が発生。旧幸手町では死者9名、重軽傷者30余名、家屋全壊約360戸の被害を負った。その後も昼夜を問わず余震が頻発した。
47	浅間神社再建碑	1930	埼玉県幸手市北二丁目(浅間神社)	関東大震災(1923年9月1日)	地震	大正12年(1923)9月1日午前11時58分、関東一帯を大地震が襲った。旧幸手町では死者9名、家屋全壊337戸、半壊120戸、神社仏閣学校等の倒壊を加えると472戸が被害を負った。その後も余震が続いたため、人々は屋外での避難生活を余儀なくされた。
48	熊野神社	1899	埼玉県幸手市北三丁目(熊野神社)	洪水(1899年10月9日)	洪水	明治32年(1899)10月8日、大雨の影響で権現堂川が増水し始め、翌9日の夜遅くに順礼樋管東側の堤防が決壊した。濁流は幸手領内を飲み込み、旧権現堂村では浸水家屋45戸の被害を負った。

49	水害復舊記念之碑	1949	埼玉県幸手市大字上宇和田(宇和田公園)	カスリーン台風(1947年9月)	洪水	昭和22年(1947)カスリーン台風は、9月15日から利根川上流域に大雨を降らせ、翌16日は快晴であったが、午前1時、栗橋上流の新川地先で堤防が決壊し、刈入れ間近の水田や家の屋根までもが濁流の下に沈んだ。同日午前8時には、支流中川でも上宇和田両岸と沢目木の堤防が決壊した。流出した土砂で沃野は荒地と化し、村民を茫然とさせた。
50	重修加藤樋之碑	1900	埼玉県吉川市大字吉屋	明治29年の大洪水(1896年9月12日)	洪水	明治29年(1896)秋の長雨で、9月12日に利根川が増水して堤防が決壊し、利根運河を逆流して江戸川に流れ込んだ。江戸川対岸の深井新田先で破堤し大洪水となり、吉屋・加藤地区は甚大な被害を受け、稲田約85ヘクタールは砂丘あるいは池沼となった。
51	協同碑	1894	埼玉県吉川市大字川藤	明治23年台風(1890年8月)	洪水	明治23年(1890)8月中旬、台風の影響で利根川の栗橋は約4.9m、江戸川の金杉は約4.5m水位が上がった。なかなかない洪水で、旧中条村(現熊谷市)の堤が25日に破られ利根川が氾濫した。27日には旧戸ヶ崎村(現三郷市)の門樋の南側、29日には旧吉川村木売が破られ、二郷半領(現吉川市(旭地区を除く)と三郷市)は果てしない海のようになり家屋を没した。
52	大威徳明王	1774	埼玉県吉川市大字加藤	洪水(1772年)他	洪水	二郷半領内(現吉川市(旭地区を除く)と三郷市)の水害は度重なり、安永元年(1772)から2年連続して旧吉屋村で破堤して洪水となった。石碑は水難除けとして、大威徳明王が水害を起こすと考えられていた水牛にまたがり押さえており、「大威徳明王の威徳で水牛の角が折れて、長い年月、水をもらすな。」との願いが刻まれている。
53	台風災害復旧記念碑	1962	埼玉県比企郡嵐山町鎌形1993(鎌形八幡神社)	伊勢湾台風(1959年9月26日)	その他	昭和34年(1959)9月26日に来襲した伊勢湾台風は、全国的に大きな被害を与えた。嵐山町も家屋の全壊3棟、半壊10棟等の被害を受けた。本神社は、大風雨で48本の樹木が倒れたため、本殿、神門、水屋、社務所、鳥居等、損害を受けなかったものはなかった。特に護国神社は、周囲約3mの杉の大木により壊滅し、言葉で言い表せないほどの惨状であった。
54	神域復興記念之碑	1968	埼玉県比企郡嵐山町鎌形1993(鎌形八幡神社)	昭和41年台風26号(1966年9月25日)	その他	かつてないと言われた台風26号は、暴風雨を伴って、昭和41年(1966)9月25日未明に関東西部を襲い、家屋倒壊、樹木も倒れ、交通を随所に寸断させ、稀に見る災害となった。境内の巨大な杉は大部分が倒れ、本殿、神門、御水舎、社務所等は甚大な被害を受けた。灯籠は倒壊し、鳥居、石段、参道等全て修復が必要な惨状となった。
55	修堤記念碑	1914	埼玉県比企郡川島町大字長楽	洪水(1913年8月27日)	洪水	大正2年(1913)8月27日、数日続いた風雨により洪水氾濫が発生した。都幾川が堤防を越水したため、長楽地区の住民らが水防に従事したが、地区の堤防4箇所で決壊した。人畜の死傷、家屋の流失十数戸、田畑も十数ヘクタールが荒地となってしまった。ここの堤は昔から寛文、弘化、明治と何度も決壊しているが、今回の被害が最たるものであった。
56	水害伝承碑	2021	埼玉県比企郡川島町大字上伊草	洪水(1907年8月)明治43年の大水害(1910年8月)カスリーン台風(1947年9月)昭和57年台風18号(1982年9月)令和元年東日本台風(2019年10月)	洪水	輪中の里、川島町は度重なる大水害に見舞われた。明治40年(1907)8月の水害からまもなく、明治43年(1910)8月は連日の豪雨により、荒川、市野川、越辺川、入間川が氾濫し、当時の川島郷六村は湖となり多くの死者も出た。その後、昭和22年(1947)9月のカスリーン台風により釘無地区の堤防が破堤した。昭和57年(1982)9月の台風18号では、越辺川が大増水し、付近2箇所が崩れたが、消防団の対応により決壊を免れた。令和元年(2019)10月の東日本台風(台風19号)では、正直・戸守地区などの床上浸水被害があった。
57	修堤紀念碑	1924	埼玉県比企郡吉見町大字上砂	洪水(1913年8月27日)	洪水	大正2年(1913)8月27日、台風による暴風雨で荒川が大氾濫となり、本堤から水が溢れ、上砂堤は延長約205m決壊し、堤内は水深9mに達し、水田は土砂で埋没した。その数百m下流でも堤が崩壊し、極めて悲惨な状況となった。吉見町内では5箇所の堤防決壊があった。
58	寛保洪水位磨崖標	1742	埼玉県秩父郡長瀞町大字野上下郷1010付近	荒川大洪水(1742年7月27日(旧暦)から4日間)	洪水	寛保2年(1742)、4昼夜降り続いた豪雨により荒川が氾濫し、この付近一帯はことごとく水没した。後日、地元の有志2人が当時の水位を岩肌に「水」の文字で刻んだ。そのほかにも文字が刻まれていたが、現在は大きい「水」の字以外は判読が困難である。

59	為溺死者追弔供養(明治40年水害供養地蔵)	1908	埼玉県秩父郡小鹿野町飯田1349-10	洪水(1907年8月)	洪水・土砂災害	明治40年(1907)8月には4つ台風が日本を襲い、長雨を降らせ、利根川では大洪水となった。この長雨による土砂災害は、旧三田川村では死者4名、行先不明2名、流失埋没家屋等7戸、旧小鹿野町で倒壊家屋1戸の被害を生んだ。この地蔵尊は犠牲者を供養するために建てられ、災害を機に栗尾沢に大正5年県内最初の砂防堰堤が造られた。
60	紀功碑	1925	埼玉県児玉郡神川町大字下阿久原	明治43年の大水害(1910年8月10日)洪水(1913年8月27日、他)	洪水	上武橋は洪水のたびに流失し、より堅固な永久橋が求められていたところ、念願かなって明治42年4月(1909)に完成した。しかし、翌43年(1910)8月、長雨によりいくつもの河川で氾濫や堤防決壊、家屋流失、人畜に被害の出るほどの大洪水により、また上武橋は流失した。同45年(1912) 6月に修復したが、再び大正2年(1913)8月27日に一部流失し翌3年(1914)8月13日の洪水で完全に流失した。橋はその後、大正11年(1922)11月に再建された。

※国土地理院の自然災害伝承碑データ(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html)に基づく。最新の情報は、地理院地図から閲覧することができる。